

teku-teku
FEATURE

御岳昇仙峡

みたけ

文人墨客にも愛された
日本を代表する渓谷美

▲昇 橋
●眺望 覺 圓 峯



「仙嶽關路図」をもとに明治35(1902)年に発行された「御岳探勝案内」の覺円峰の図(山梨県立博物館蔵)

Teku-Teku
FEATURE

御岳昇仙峡の 始まり

未開の渓谷。それは信仰の山に
つながっていた

昇仙峡の奥に鎮座する奥秩父連峰の名峰・金峰山は、古来より山岳信仰の山として知られています。昇仙峡を登り詰めた地にあり、約2千年の歴史を有する甲府の金櫻神社が登拝口の一つであったため、道が開かれる前から、金峰山への参拝路(御岳道)として修験者が昇仙峡を訪れていたと考えられています。現在では景勝地として知られている昇仙峡も、かつては山深い地にひっそりと、その姿を隠すように存在していました。その美しさが世に知られ、やがて観光名所へと発展していったのは、江戸時代後期、地元の猪狩村で農業を営んでいた長田円右衛門らが新しい道を切り開いたことが始まりでした。



昇仙峡にある長田円右衛門の碑

苦難の末に、開削された新道は
産業と観光の可能性も切り開いた

円右衛門が暮らしていた猪狩村など、昇仙峡の上流に位置する村では製炭が主な産業でした。当時、村人たちが炭やまきを甲府城下へ売りに行き、日用品などの買い物を済ませて村に戻るためには、未整備の山道を通らなければならず新しい道の開削が待ち望まれていました。そこで円右衛門が中心となり、天保5(1834)年に溪流沿いの新道開削に着手しました。しかし大きな岩盤などに阻まれる難工事となり、また途中、大飢饉に見舞われて中断を余儀なくされるなど、新道の開削は苦難の道のりでした。そして天保14(1843)年によく「御岳新道」は開通したのです。

山梨を代表する地場産業の一つに宝飾産業があります。甲府市を中心に宝飾産業が発展したのは、昇仙峡を含む甲府盆地の北側の山々から水晶が大量に産出したことに起因します。水晶は特に金峰山周辺に多くあり、昇仙峡の上流に位置する黒平村では盛んに採掘されていました。こうした産物の流通にも新道の恩恵があったと考えられます。そして何とんでも観光への影響は大きく、円右衛門と交遊のあった文人らが景勝地を描き、詩文を添えた「仙嶽關路図」が安政元(1854)年に発行されるなど、昇仙峡は観光地として広く知られるようになりました。



三枝雲岱「御嶽昇仙峡絵巻」(山梨県立博物館蔵) 金櫻神社と昇仙峡が描かれている



水晶の採掘の様子を復元した模型(左)と黒平で産出した水晶(右)
(帝京大学やまなし伝統工芸館)



昇仙峡、その名の由来は
謎に満ちている

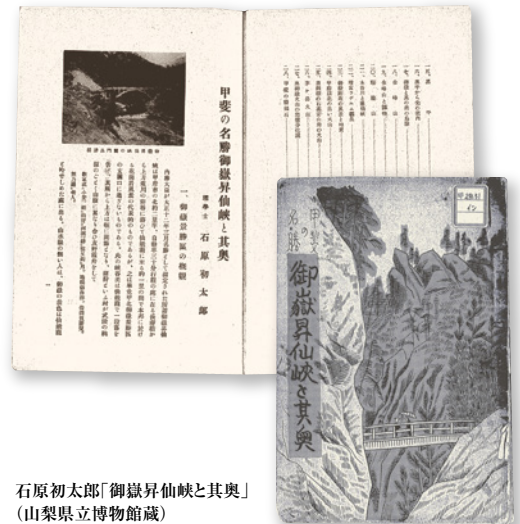
実は昇仙峡という名称は、いつ、誰が、どのよう
にして名付けたのか分かっていません。地質・
植物の調査研究や景勝地開発で功績を残した石
原初太郎は、昭和5(1930)年に刊行した著
書「御嶽昇仙峡と其奥」の中で、江戸時代の終わ
りごろには、単に御岳新道と呼ばれていたのを
明治20(1887)年に漢学者の三島毅らが「巨摩
溪と名付けたと紹介しています。御岳昇仙峡の名
称が初めて見られるのは、明治27(1894)年に
出版された、地理学者である志賀重昂の「日本風
景論」です。そして大正元(1912)年に発行さ
れた、作家である松崎天民の「甲州見聞記」には
「俗に御嶽新道といい、また、金溪とも昇仙峡と
もいう」と書かれています。このように当時はま
だ名称が定着していませんでした。

皇太子の行啓により御岳昇仙峡の
名は定着し全国に広まった

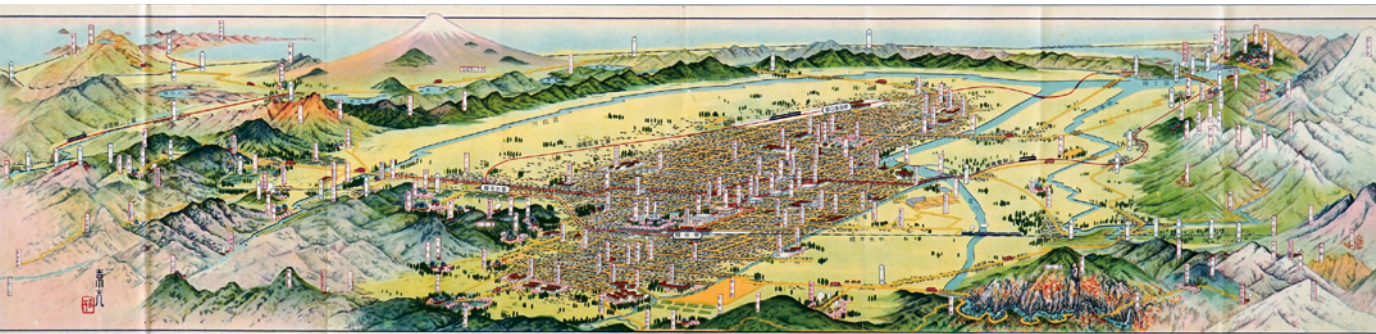
大正11(1922)年9月に「御岳に行啓を仰
ぐべし 当局者に勸む」と題された社説が地元
の新聞の一面に掲載されました。それは大正天
皇の摂政を務めていた皇太子(後の昭和天皇)
の行啓日程に昇仙峡が含まれていなかったた
め、行啓を懇願してほしいといった内容のもの
でした。そこには皇太子の観光探勝によって、



昭和初期の「御嶽昇仙峡絵葉書」(山梨県立博物館蔵)



石原初太郎「御嶽昇仙峡と其奥」
(山梨県立博物館蔵)



「甲府市を中心とする甲斐大観」(山梨県立博物館蔵) 甲府盆地を中心とした観光名所案内。右下に昇仙峡が描かれている



仙娥滝

昇仙峡の名声が高まることへの期待も込められていたといえます。願いは現実のものとなり、10月に皇太子は昇仙峡に赴かれ、仙娥滝（せんがたき）を見ることのできる昇仙橋の上で知事から説明を受けました。その後、皇太子は当時から名勝地として有名であった九州の耶馬溪（やまがき）に出し「予は九州大演習の際、耶馬溪を見たが、御岳の勝地には遠く及ばない。耶馬溪以上である。記者にこのように伝えよ」と侍従武官長に話しました。その喜ばしい出来事を報道した新聞には御岳昇仙峡の名称が大きく記されました。皇太子の行啓は、全国に御岳昇仙峡の素晴らしさを伝えるために極めて大きな効果を発揮し、行啓からわずか2カ月余りの12月16日には国の名勝への指定が決まり、翌年3月7日の官報で告示されています。東京や横浜方面から鉄道で訪れる観光客も大幅に増えていき、昇仙峡は観光地としての揺るぎない地位を築いていったのです。



新道開削工事でできた石門



昇仙橋

人々が生きた歴史が刻まれた
魅力ある地

昇仙峡にはまだ広く知られていないことがあります。例えばロープウェイで登った先にある山の中には、胎内くぐりをしたと思われる穴など、修験者が修行の場としていた痕跡が今でも残っています。また山中にはたくさん古道があり、昔の人々がさまざまな形で交流を持ち、ルートを開拓していたことがうかがえます。その古道には独特な石造物も点在しています。残念ながら整備がされておらず、現時点では観光客が訪れることはできませんが、今年6月に登録された甲武信ユネスコエコパークのエリアになり、日本遺産への認定も目指している今、昇仙峡の知られざる文化遺産の再発見に期待が集まっています。

水晶が採掘されていた黒平はかつて有名な温泉地でもあり、商家の旦那衆が湯治場として通い、また、金峰山山頂にある金櫻神社の奥宮への参詣客が立ち寄るなど、にぎわいを見せていました。美しい自然は大切に守られ、清らかでおいしい水の産地としても知られています。

金峰山の麓と昇仙峡一帯は、修験者の歴史にとどまらず、炭やまきの生産、水晶、温泉の歴史などが、豊かな自然の中で刻まれた地域なのです。今もなお、いにしへの文化が息づく昇仙峡。そこには景勝地としてだけではなく、奥深い魅力があります。

四季折々に移り変わる 山梨の渓谷美



※10月の台風19号の影響でアクセスが困難な地域があります。

山梨は四方を急峻な山々に囲まれ、その豊かな自然を源とする清らかな水が流れる渓谷が各地にあります。芽吹きから新緑の初夏、緑深まる夏から紅葉の秋、そして雪をまとう冬。移ろう季節それぞれに描き出される渓谷を見に出掛けてみませんか。一度は訪れてみたい、山梨の渓谷をご紹介します。



板敷渓谷 (甲府市)

荒川ダムの先、奥昇仙峡にある渓谷。手つかずの自然が残る静かな渓谷には大小いくつもの滝がある。落差約10mの白髪滝を眺めてさらに奥に進むと落差約30mの大迫力の大滝が現れる。

アクセス

JR甲府駅からバスで約50分
昇仙峡滝上下車後、徒歩で約50分
甲府昭和ICから車で約50分



尾白川渓谷 (北杜市)

甲斐駒ヶ岳を源とする尾白川は名水百選にも選ばれている。花こう岩の岩肌を流れ下る清流はエメラルド色に輝く。滝や淵も多く、雄大な自然の中で渓谷美を堪能できる。

アクセス

JR小淵沢駅からタクシーで約20分
須玉ICから車で約30分



昇仙峡 (甲府市・甲斐市)

甲府市内を流れる荒川の源流に広がり、昭和28(1953)年には国の特別名勝に指定されている。渓谷沿いに整備された遊歩道からは、覚円峰や仙娥滝をはじめとする日本有数の景観が楽しめる。平成の名水百選にも選ばれている。

アクセス

JR甲府駅からバスで昇仙峡滝上まで約50分
甲府昭和ICから車で約40分



早川渓谷 (早川町)

左右に切り立った山々の間を流れる早川。渓谷沿いは快適なドライブコースでもある。上流の奈良田湖近くには温泉施設もあり、山深く豊かな森林に囲まれて温泉と渓谷を満喫することができる。

アクセス

JR身延駅からタクシーバスで約60分
新倉下車後、徒歩で約30分
下部温泉早川ICから車で約45分



西沢渓谷 (山梨市)

秩父多摩甲斐国立公園に位置し、日本の滝百選にも選ばれた名瀑・七ツ釜五段の滝をはじめ、いくつもの滝がある。豊かな森林環境に恵まれ、森林セラピー基地に認定されている。

アクセス

JR山梨市駅からバスで約60分
勝沼ICから車で約60分



大柳川渓谷 (富士川町)

甲斐源氏の祖・源義光の居城跡と伝えられる源氏山を源とする渓谷。渓谷内には「く」の字に曲がる全国的に珍しいつり橋や、観音様が宿るといわれる観音滝がある。

アクセス

JR織沢口駅からタクシーで約20分
増穂ICから車で約20分



川俣川渓谷 (北杜市)

八ヶ岳南麓を流れる渓谷で、遊歩道も整備されている。ぜひ訪れたいのが吐竜の滝。落差約10m、幅約15mの滝は、岩の間からまるで絹糸のように水が流れ落ち、神秘的な雰囲気。

アクセス

JR甲斐大泉駅または清里駅からタクシーで約10分、下車後、徒歩で約15分
須玉ICから車で約30分、駐車場から徒歩で約15分

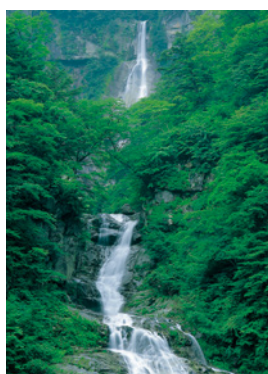


戸川渓谷 (富士川町)

三段の滝や妙蓮の滝など「戸川48滝」と呼ばれる大小48のさまざまな表情の滝が見られる渓谷。ブナやカエデ、クスギなどの紅葉も美しく、近くには秘湯・赤石温泉もある。

アクセス

JR織沢口駅からタクシーで約30分
増穂ICから車で約30分



石空川渓谷 (北杜市)

鳳凰三山の一つ・地藏ヶ岳を源とする石空川の渓谷。上流の標高1400m付近には、日本の滝百選にも選ばれた、東日本最大の落差約121mを誇る精進ヶ滝がある。壮大な名瀑と紅葉は絶景。

アクセス

JR日野春駅からタクシーで約25分
須玉ICから車で約30分



道志渓谷 (道志村)

山伏峠を源とする道志川の渓谷。日本有数の清流はアユやイワナ、ヤマメなどの宝庫としても知られている。レジャー施設も点在中なので渓谷美を楽しみながら遊ぶことができる。

アクセス

富士急行都留市駅からタクシーで約30分
都留ICまたは山中湖ICから車で約30分



日川渓谷 (甲州市)

三段に連なる落合三つの滝や竜門の滝などが点在する渓谷には巨岩もあり、春にはツツジ、秋には紅葉が彩りを添える。遊歩道が整備され、ゆったりと散策を楽しむことができる。

アクセス

JR甲斐大和駅からバスで約10分
勝沼ICから車で約15分